

Title	韓国都市における街路型市場の特性と持続可能性に関する研究
Author(s)	李, 映娥
Citation	大阪大学, 2006, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/46970
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏名	李映娥
博士の専攻分野の名称	博士(工学)
学位記番号	第 20385 号
学位授与年月日	平成 18 年 3 月 24 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当 工学研究科環境工学専攻
学位論文名	韓国都市における街路型市場の特性と持続可能性に関する研究
論文審査委員	(主査) 教授 澤木 昌典 (副査) 助教授 福田 知弘 教授 鳴海 邦碩 助教授 松村 暢彦 助教授 鈴木 毅

論文内容の要旨

本論文は、韓国都市における在来の商業空間であり、近代以降の流通環境の変化、消費者の購買欲求の変化、設備の老朽化などによって衰退している市場を対象として、近代都市と調和しながら、その再生のための活用手法を明らかにすることを目的に、特に公共空間である街路空間の利用が問題となっている街路型市場に着目して考察したものである。

序章では、本研究の背景と目的、研究の構成などについて記述した。

第 1 章では、韓国都市における市場を前近代と近代とに時期を分けて役割とその変化を概観し、社会・経済・文化・地域性のそれぞれの背景から都市と市場の関連性について分析している。さらに、このような都市と市場の相互関連性から生じる効果を発揮するための基礎となる市場の空間形態としての街路型市場の可能性を考察した。

次いで、第 2 章では、都市空間の近代化とともに市場空間も様々な形態に変容していくという仮説から、市場空間が現在の状況に至った原因を分析することを目的とし、都市の市街化の過程と市場空間の変容との相互関連性を分析して、近代都市空間の問題点および公共空間である街路空間の活用可能性を考察した。

第 3 章では、法制度が市場の空間形態に及ぼす影響を明らかにし、法の変遷が市場の空間形態を変容させる原因になってきたこと、ならびに法と市場空間の現状とのずれを把握した上での市場に対する望ましい規制方法について考察した。

第 4 章では、市場がその領域を形成した条件や空間利用特性を明らかにし、それらの領域を形成した空間形態と業種分布に基づく空間特性を活かした持続可能性について考察した。

さらに第 5 章では、第 4 章で明らかになった市場の空間的特性を手がかりとして、市場の運営組織を調査分析し、市場を自律的に運営管理するための方法について考察した。

最終章では、上記までに論じてきたことを総括し、都市における街路型市場の持続に関する空間整備と政府支援の課題を論じるとともに、自らの力で持続していくことができる自生力を基にした街路型市場の持続可能性について考察した。

論文審査の結果の要旨

本論文は、韓国都市における在来からの商業空間である街路型市場を対象として取り上げ、それが将来にわたり現代の都市空間と調和しつつ存続するための基礎を得ることを目指し、都市における役割、市街化や法制度の変遷の過程のなかでの変容、空間利用特性、運営管理システムに関して分析した知見を取りまとめたものである。得られた結果を要約すると、以下のとおりである。

(1)韓国都市における市場の歴史に関する文献調査を通じ、史実として確認できる紀元後2世紀以降における政治体制の変遷の中での市場の役割を整理し、市場が単に商業空間としてだけでなく多様な機能を果たしてきたこと、および空間利用形態としては街路の利用を伴う街路型市場という形態が時代を問わずに存続してきたことを明らかにしている。

(2)工業都市である蔚山市を対象とした1960年代以降の近代化過程における市街地の発展による市場空間の変容に関する分析を通じ、伝統的市場と新設市場、定期市場と常設市場等の種類別にその位置や空間形態・運営方式などの変容を整理し、街路型市場が存続してきた状況ならびに新設の建物型の市場においても設置後にその周辺に街路型市場が形成されてきたことを明らかにし、街路空間の利用を含む街路型市場という形態が現代においても志向されていることを示唆している。

(3)植民地時代以降現代に至るまでの韓国での市場に関連する法制度の変遷ならびに市場活性化事業等における街路型市場の位置づけの変遷に関する分析を通じ、1981年以降不法と位置づけられた市場による街路利用が、建物型市場重視への反省から時限立法ながら在来市場育成の中で合法的に位置づけられたこと、および他都市における特区指定による露店の活用事例の存在を明らかにしている。

(4)街路型市場の空間利用特性に関する調査を通じ、周辺地域住民との食材売買を通じた緊密な関わりや市街地の街路網構造のなかでの自動車交通に影響を及ぼしにくい場所への立地性向、露天商の営業場所と沿道店舗との共存的な空間利用実態を明らかにし、百貨店や商店街とは商業・流通上の機能特性の異なる街路型市場の持続可能性を示唆している。

(5)市場の運営組織に関する調査を通じ、建物型市場・沿道店舗・露天商といった異なる主体による種々の運営形態の実態を整理し、市場を構成する全構成員が参加できる組織の形成あるいは異なる組織が目標を共有した均衡関係のなかでの主体的・自立的運営が街路型市場の持続可能性を向上させることを示唆している。

(6)以上のような知見をふまえて、法的な位置づけが不安定な街路型市場について、韓国都市における機能や存在価値を整理するとともに、その将来へ持続的維持の必要性を論じ、その上で機能・空間利用・運営体制の観点から街路型市場の持続可能性を向上させるための有効な提言を行っている。

以上のように、本論文は環境工学の発展に寄与すること大である。

よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。